

一般社団法人 日本創傷外科学会

## 専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第 14 回専門医試験

問題 1) 顔面軟部損傷の初期治療において誤りはどれか。

1. 口腔粘膜の小欠損は開放創でも構わない。
2. 眉毛部は中間毛なので剃毛は避ける。
3. 傷に入った砂粒は周囲組織も含めて完全に除去する。
4. 局所浸潤麻酔する前に麻痺の確認を行う。
5. 絹糸で強く締めて皮膚縫合するのはなるべく避ける。

問題 2) 顔面熱傷において早期の植皮が最も適応になる部位はどれか。

1. 頬部
2. 眼瞼部
3. 前額部
4. 鼻部
5. 耳介

問題 3) 眼瞼部の外傷について正しいのはどれか。

1. デブリードマンは積極的に行う。
2. 眼瞼幅 1/4 までの全層欠損は直接縫合して良い。
3. 乳幼児では創の安静のため、眼帯やガーゼで眼部全体を保護する。
4. 涙小管損傷が下涙小管のみの時は修復しなくてもよい。
5. 涙道損傷は、新鮮例よりも陳旧例の方が再建しやすい。

問題 4) ケロイド、肥厚性瘢痕を予防するために適切なのはどれか。

1. 辺縁を合わせるために縫合時に有鉤鑷子で皮膚を強く把持した。
2. 皮膚腫瘍切除後の縫合時に皮膚の緊張が強かったため、3-0 ナイロンで皮膚を縫合し、閉鎖した。
3. 上眼瞼の挫滅創に対して 4-0 ナイロンで水平マットレス縫合を行った。
4. 胸部の皮下腫瘍を摘出した後、放射線治療を行った。
5. 深達性Ⅱ度熱傷上皮化後にシリコンシートを貼付した。

問題 5) ケロイドの治療として不適切なものはどれか。

1. シリコンシート貼付
2. ステロイドテープ剤貼付
3. ステロイド局所注射
4. ステロイド内服
5. 手術

問題 6) ケロイドの放射線治療について正しいのはどれか。

1. ケロイドの手術後に放射線治療を行わないと高率に再発する。
2. 1回の照射線量は 10Gy 以上とするのがよい。
3. 手術後、放射線治療開始までの期間は長い方がよい。
4. 女性の下腹部に照射すると卵巣まで電子線が到達する。
5. 肥厚性癬痕にも放射線治療を行うとよい。

問題 7) 創傷治癒について正しいのはどれか。

1. バイオフィルムは石鹼洗浄で除去できる。
2. TIMERS の R とは抵抗 (Resistance) のことである。
3. 線維芽細胞は創傷治癒過程の初期に活躍する。
4. 慢性創傷の創表面は酸性になっていることが多い。
5. バイオフィルムの中の細菌には抗菌剤が到達しにくい。

問題 8) 難治性足潰瘍について正しいのはどれか。

1. SPP (皮膚灌流圧) が 50mmHg では創傷治癒は見込めない。
2. Blue toe 症候群では通常、末梢の動脈拍動は触知不良である。
3. 血管炎は難治性足潰瘍の原因にならない。
4. WIfI 分類は静脈うっ滞性足潰瘍の分類である。
5. 虚血性足潰瘍の治療には末梢血行再建術が必要である。

問題 9) 糖尿病性足潰瘍について正しいのはどれか。

1. 末梢神経障害は上肢から生じやすい。
2. 感染している足潰瘍は足浴を行う。
3. シャルコー足変形は虚血により生じる。
4. 胼胝は虚血性潰瘍の前駆病変である。
5. 世界的に非外傷性下肢切断の最大の原因は糖尿病性足潰瘍である。

問題 10) 褥瘡を予防する上で正しいポジショニングはどれか。

1. 踵部に円座を使用した仰臥位
2. 股関節を 45° 屈曲させた座位
3. 大転子を下にした 90° 側臥位
4. 仙骨部に円座を使用した仰臥位
5. 大腿後面にクッションを入れたファーラー位

問題 11) DESIGN-R®2020 を用いた褥瘡の評価について正しいのはどれか。

1. 持続する発赤があれば、「D」の評価は0となる。
2. 浮腫性の肉芽があれば、「I」の評価は3Cとなる。
3. 深部損傷褥瘡 (DTI) が疑われる時は、「G」の評価は6となる。
4. 「P」を評価する際の長径は、「S」で測定した長径と一致する。
5. 「D」「E」「S」「I」「G」「N」「P」を評価し、全項目の合計点数で重症度を表す。

問題 12) 各部位の褥瘡に対する再建手術として通常用いないのはどれか。

1. 腸骨部一僧帽筋皮弁
2. 仙骨部一大殿筋穿通枝皮弁
3. 坐骨部一後大腿皮弁
4. 大転子部一大腿筋膜張筋皮弁
5. 踵部一遠位茎腓腹皮弁

問題 13) 熱傷創の手術療法について正しいのはどれか。

1. Tangential excision はⅢ度熱傷創が適応である。
2. Fascial excision では出血量が多い。
3. 早期手術とは受傷後4日以内に行う手術をいう。
4. 超早期手術とは受傷後48時間以内に行う手術をいう。
5. Sequential excision は壊死組織の拡大防止に有効である。

問題 14) 手の熱傷について正しいのはどれか。

1. 浅達性Ⅱ度熱傷では積極的に手術を行う。
2. 深達性Ⅱ度熱傷ではFascial excisionを行う。
3. Ⅲ度熱傷ではTangential excisionを行う。
4. Functional position とはボールを握るような肢位のことである。
5. Safe position とはintrinsic minus positionのことである。

問題 15) 小児の熱傷について正しいのはどれか。

1. 初期治療では熱傷の進行を止めるために、冷水で十分に洗浄を行う。
2. 初期治療での時間尿量は5ml/kgを維持する。
3. 経口摂取はなるべく遅らせる。
4. 成人に比べてToxic Shock Syndrome (TSS) のリスクが高い。
5. 気道確保のために積極的に気管切開を行う。